

【資料・史料一覽】

文献

間違いやすい年代のもののみ四桁の西暦を記したが、そうでないものについては下二桁のみを記す。

辞典一覽

『広辞苑 第五版』(新村 出編、岩波書店、九八年、「広辞苑」と略記)

『新字源 第五三版』(小川環樹他編、角川書店、七三年、「新字源」と略記)

『大辞林 第二版』(松村明他編、三省堂、九五年、「大辞林」と略記)

著書・論文・史料一覽

『CD再現 東海道五十三次』双葉社スーパームック、〇九年(『CD』と略記)

『時事新報』復刻版、龍溪書舎、一九八六年)

『福沢関係文書(マイクロフィルム)』、慶応義塾福沢研究センター編、雄松堂出版、八九年(『文書』と略記)

『福沢関係文書 収録文書目録』第二分冊、慶応義塾福沢研究センター編、雄松堂書店、九一年(『目録』と略記)

あ行

飯田三次「金玉均氏を福沢先生に紹介す」、葛生玄暉編『金玉均』(非売品、一九一六年)所収

家永三郎『日本道徳思想史』岩波書店、五四年

石河幹明①『福澤論吉傳(三)』岩波書店、三三年

石河幹明②「附記」、『続福澤全集』第五卷「時事論集」(岩波書店、三四年)所収

泉 鏡花「夜行巡査」、同『外科室・海城発電他五編』(岩波文庫、九一年)所収(原典は一八八五年刊)

- 井田進也『歴史とテキスト——西鶴から論吉まで』光芒社、〇一年  
 一ノ瀬俊也『旅順と南京——日中五十年戦争の起源』文春新書、〇七年  
 伊藤正雄『福沢諭吉論考』吉川弘文館、六九年  
 井上角五郎①『漢城之残夢』春陽書樓、一八九一年  
 井上角五郎②『関係書類は何もない』葛生玄暉編『金玉均』（非売品、一九一六年）所収  
 井上角五郎③『福沢先生の朝鮮御経營と現代朝鮮の文化とに就いて』三四年  
 井上角五郎④『朝鮮事変に就いて』明治文化研究会編『明治文化研究』一九二九年四月号  
 井上勝生①『日本軍による最初のアジア民衆虐殺』、『世界』（岩波書店）〇一年一〇月号所収  
 井上勝生②『甲午農民戦争（東学農民戦争）と日本軍』、田中彰編『近代日本の内と外』（吉川弘文堂、九九年）所収  
 井上 清①『日本の歴史 中』岩波新書、六六年  
 井上 清②『日本の歴史 下』岩波新書、六六年  
 井上 清③『日本の朝鮮侵略と帝国主義』、『日本の軍国主義』（岩波書店、〇四年）所収（原論文は六八年公表）  
 井上晴樹『旅順虐殺事件』筑摩書房、九五年  
 岩崎允胤『日本近代思想史序説 明治前期（上）』上、新日本出版社、〇二年  
 色川大吉『近代国家の出発』中公文庫（『日本の歴史』第二卷）、七四年  
 内村鑑三①『福沢諭吉翁』伊藤正雄『明治人の観た福沢諭吉』（慶応義塾大学出版会、〇九年）所収（原典公表は一八九七年）  
 内村鑑三②『猛省』、『内村鑑三選集 非戦論』（岩波書店、九〇年）所収（原典公表は一八九七年）  
 内村鑑三③『戦争廃止論』、同右所収（原典公表は一九〇三年）  
 宇野俊一『日清・日露』小学館（『日本の歴史』第二八卷）、七六年  
 海野福寿『韓国併合』岩波新書、九五年  
 吳<sup>オ</sup>知<sup>チ</sup>泳<sup>ウ</sup>『東学史——朝鮮民衆運動の記録』（梶村秀樹訳注）平凡社、七〇年  
 大江志乃夫『兵士たちの日露戦争』朝日新聞社、八八年

オーエン・G「プラトン対話編における『ティマイオス』の位置」、井上忠他編『ギリシア哲学の最前線 二』（東大出版会、八六年、篠崎榮訳）所収

大谷 正①『近代日本の対外宣伝』研文出版、九四年

大谷 正②『日清戦争』井口和起編『近代日本の軌跡3日清・日露戦争』（吉川弘文館、九四年）所収

岡倉天心『茶の本』中央公論社（日本の名著『岡倉天心』、八四年（原典はイギリス語で一九〇六年刊）

か行

外務省①『朝鮮事変二（甲申政変時の電信やりとり）』アジア歴史資料センター B03030194500

外務省②『朝鮮暴動事件二／一（漢城条約）』アジア歴史資料センター B03030193900

外務省③『天津条約の締結』（一九三〇年）、アジア歴史資料センター B06150031800

糟谷雄一『朝鮮の近代』山川出版社（世界史リブレット43）、九六年

片倉佳文『観光コースでない台湾——歩いて見る歴史と風土』高文研、〇五年

勝 海舟『氷川清話』講談社学術文庫（江藤淳・松浦玲編）、〇〇年

加藤文三『日本近現代史の発展上』新日本出版社、九四年

鹿野政直①『福沢諭吉』清水書院（人と思想 21）、六七年

鹿野政直②『福沢諭吉と福翁自伝』朝日選書、九八年（原版はさえら書房、七一年刊）

神川彦松監修『日韓外交資料集成第七巻』巖南堂、六三年

杵淵信雄①『日韓交渉史——明治の新聞にみる併合の軌跡』彩流社、九二年

杵淵信雄②『海外の新聞にみる日韓併合』彩流社、九五年

木村 幹『高宗・閔妃——然らば致し方なし』ミネルヴァ書房、〇七年

喜安幸夫①『台湾島抗日秘史』原書房、七九年

喜安幸夫②『台湾統治秘史——霧社事件に至る抗日の全貌』原書房、八一年

姜 在彦① 『朝鮮近代史研究』 社会評論社（新訂）、七〇年

姜 在彦② 『歴史物語朝鮮半島』 朝日選書、〇六年

姜 徳相編 『カラー版錦絵の中の朝鮮と中国——幕末・明治の日本人のまなざし』 岩波書店、〇七年

金玉均 『擬以朝鮮政略』（一八八四年、山辺②および琴に所収（前者は原文・後者は書き下し文）

金文字 『朝鮮王妃殺害と日本人——誰が仕組んで誰が実行したのか』 高文研、〇九年

琴 乘洞 『金玉均と日本』 緑蔭書房、九一年

礫川全次 『知られざる福沢諭吉——下級武士から成り上がった男』 平凡社新書、〇六年

小泉信三 『福沢諭吉』 岩波新書、六六年

幸徳秋水 『二十世紀の怪物 帝国主義』 岩波文庫（書名は『帝国主義』）、〇四年

小室直樹 『韓国の呪い——広がるばかりの日本との差』 光文社、八六年

近藤吉雄 『井上角五郎先生伝』 大空社、八八年（復刻原本は四三年刊）

昆野和七 『石河幹明論説目録について』、慶応塾福沢研究センター発行、九二年

### さ行

佐高 信 『福沢諭吉伝説』 角川学芸出版、〇八年

篠田鑑造 『明治新聞奇談』 明正堂、四三年

芝原拓自他編 『対外観』 岩波書店（日本近代思想体系12）、八八年

司馬遼太郎① 『坂の上の雲一』 文藝春秋、六九年

司馬遼太郎② 『明治』 という国家』 日本放送出版協会、八九年

周 婉笏 『図説 台湾の歴史』 平凡社（濱島敦俊監訳）、〇七年

昌徳宮編 『昌徳宮』（パンフレット）、〇九年入手

白井久也 『明治国家と日清戦争』 社会評論社、九七年

杉田 聡①「福澤論吉のマキャベリズムと侵略主義——『時事新報』朝鮮・中国問題社説に見る実像」、札幌唯物論研究会編『唯物論54 創立五十周年記念』、一〇年

杉田 聡②「カント哲学と現代——疎外・啓蒙・正義・環境・ジェンダー」行路社、一二年初

杉村 濬「明治廿七八年在韓苦心録」龍溪書舎、〇三年（復刻原本は三一年刊）

鈴木 淳「史料紹介『雲揚』艦長井上良馨の明治八年九月二九付け江華島事件報告書」『史学雑誌』一一二卷二二号（財団法人史学会、〇二年）所収

鈴木隆敏編『新聞人福沢論吉に学ぶ——現代に生きる「時事新報」産経新聞社出版、〇九年（「鈴木隆」と略）

砂川幸雄「中上川彦次郎の華麗な生涯」草思社、九七年

莊 展鵬總策劃（監修）『改台見聞〈風俗畫報・台湾征討圖繪〉』远流出版（台北市）、一九九五年（『風俗画報』一八九五年、合計五号からの翻訳）

た行

高橋宗司『植民地朝鮮の日本人』岩波新書、〇二年

高瀬紫峰『全国新聞雑誌評判記』吉野作造編『明治文化全集』第一七卷（日本評論社、一九二八年）所収（復刻原本は一八八四年刊）

竹内 好「訳注」、『阿Q正伝・狂人日記』岩波文庫、八一年

立花雄一「横山源之助小伝」、横山源之助『日本の下層社会』（岩波文庫、八五年）所収

田村実造編『最後の東洋的社会』中央公論社（『世界の歴史』第九卷）、六一年

田保橋 潔①『近代日鮮関係の研究 上』原書房、一九七三年（復刻原本は四〇年刊）

田保橋 潔②『近代日鮮関係の研究 下』原書房、一九七三年（復刻原本は四〇年刊）

趙 景達『異端の民衆反乱——東学と甲午農民戦争』岩波書店、九八年

遠山茂樹『福沢論吉——思想と政治との関連』東大出版会、七〇年

角田房子『閔妃暗殺——朝鮮王朝末期の国母』新潮文庫、九三年（新潮社初版は八八年刊）  
富田虎男『アメリカ・インディアンの歴史』雄山閣（第三版）、九七年（「富田虎」と略記）  
富田正文『検証、福澤諭吉』岩波書店、九二年

な行

内閣『朝鮮事変始末・明治十五年・第三卷（済物浦条約・日朝修好条規続約）』（一八八四年）アジア歴史資料センター  
A03023642600

中塚 明①『日清戦争の研究』青木書店、六八年

中塚 明②『歴史の偽造をただす——戦史から消された日本軍の「朝鮮王宮占領」』高文研、九七年

中塚 明③『現代日本の歴史認識——その自覚せざる欠落を問う』高文研、〇七年

中塚 明④『司馬遼太郎の歴史観——その「朝鮮観」と「明治栄光論」を問う』高文研、〇九年

中塚 明他『NHKドラマ「坂の上の雲」の歴史認識を問う——日清戦争の虚構と真実』高文研、一〇年

中野 等『文禄・慶長の役』吉川弘文館（戦争の日本史一六）、〇八年

中山治一編『帝国主義の時代』中央公論社（『世界の歴史』第一三卷）、六一年

西野 玄『仁川居留地に関する一考察——仁川日本居留地埋立問題を中心に』、『朝鮮学報』第一九四輯（〇五年）所収

ノーマン・H『日本における近代国家の成立』、『ハーバート・ノーマン全集』第一卷、岩波書店、七七年（イギリス語原本は四〇年刊）

延兼教之助『続・日本近代化と租税』朝日カルチャーセンター、八四年

は行

秦 郁彦『旅順虐殺事件——南京虐殺と対比しつつ』、東アジア近代史学会編『日清戦争と東アジア世界の変容下』（ゆまに書房、九七年）所収

旗田 巍他編『朝鮮の歴史』三省堂、七四年

服部之総「東洋における日本の位置」、『服部之総著作集第六卷』（理論社、五五年）所収（原文公表は五二年）  
羽仁五郎『明治維新史研究』岩波文庫、七八年

原田敬一「日清・日露戦争」岩波新書（シリーズ日本近現代史）③、〇七年

平井晚村編『風雲回顧録（岡本柳之介伝）』中公文庫、九〇年（復刻原本は一九二一年）

平山 洋①『福沢諭吉の真実』文春新書、〇四年

平山 洋②『福沢諭吉——文明の政治には六つの要訣あり』ミネルヴァ書房、〇八年

福沢諭吉『福澤諭吉全集』全二巻・別巻、岩波書店、五九年〜六四年（巻数を①②のように示す）

福沢諭吉『福澤諭吉全集』別巻、岩波書店、七一年（「別巻」と略記）

福沢諭吉『修業立志編』時事新報社、一八九八年（「立志」と略記）

福地源一郎『新聞紙実歴』吉野作造編『明治文化全集』第一七巻（日本評論社、一九二八年）所収（復刻原本は一八九四年

刊）

藤村道生『日清戦争——東アジア近代史の転換点』岩波新書、七四年

Brandwood, I., *Sylometry and chronology*. Kraus, R. (ed.), *The Cambridge companion to Plato*, Cambridge U.P., 1992

朴<sup>パグ</sup> 宗根<sup>シヨウネ</sup>『日清戦争と朝鮮』青木書店、八二年

朴<sup>パグ</sup> 孟洙<sup>メンシュ</sup>監修『東学農民革命一〇〇年——革命の野火、その黄土の道の歴史を訪ねて』つぶて書房（信長正義訳）、〇七年

### ま行

丸谷嘉徳『福沢諭吉研究』創栄出版、〇二年

丸山真男①「解題」、『福沢諭吉選集第四巻』岩波書店、五二年

丸山真男②『福沢諭吉の哲学 他六編』岩波文庫（松沢弘陽編）、〇二年（初出は四二〜九二年）

宮嶋博史『両班——李朝社会の特権階層』中公新書、九五年

陸奥宗光『蹇蹇録』中央公論社（日本の名著『陸奥宗光』）、八四年

森山茂徳『日韓併合』吉川弘文堂（日本歴史叢書47）、九二年

や行

安川寿之輔①『福沢諭吉のアジア認識——日本近代史像をとらえ返す』高文研、〇〇年

安川寿之輔②『福沢諭吉と丸山真男——「丸山論吉」神話を解体する』高文研、〇三年

安内原忠雄③『福沢諭吉の戦争論と天皇制論——新たな福沢美化論を批判する』高文研、〇六年

矢内原忠雄『帝國主義下の台湾』（一九二九年）、若林正文編『矢内原忠雄「帝國主義下の台湾」精説』（岩波現代文庫、〇一年）所収

山川 均『山川均自伝』岩波書店（山川菊栄他編）、六一年

山辺健太郎①『日韓併合小史』岩波新書、六六年

山辺健太郎②『日本の韓国併合』太平出版社、六六年

山辺健太郎③『甲申日録の研究』朝鮮学会編『朝鮮学報』第一七輯（一九六〇年）所収

山辺健太郎④『日本統治下の朝鮮』岩波書店、七一年

横山源之助『日本の下層社会』岩波文庫、八五年改版（原書は一八九八年刊）

吉田傑俊『福沢諭吉と中江兆民』大月書店、〇九年

吉野 誠『李朝末期における米穀輸出の展開と防穀令』朝鮮史研究会編『朝鮮史研究会論文集』第一五集（七八年）所収

ら行

レーニン『帝國主義論』岩波文庫（宇高基輔訳）、五六年

歴史教育研究会（日本）・歴史教科書研究会（韓国）編『日韓交流の歴史』明石書店、〇七年（歴史」と略記）